

(講座) 治療薬剤学

(研究室)

(氏名) 藤 秀人

(職名) 講師

【研究テーマ】

1. 生体リズムを基盤にした医薬品適正使用に関する研究
2. 投薬タイミング規定因子を用いた癌化学併用療法の構築

【論文発表】

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. K. Ushijima, T. Morikawa, H. To, S. Higuchi and S. Ohdo: Chronobiological disturbances with hyperthermia and hypercortisolism induced by chronic mild stress in rats, *Behav Brain Res*, **173**, 326-330 (2006). (IF: 2.591)
2. M. Yoshida, H. Kiyofuji, S. Koyanagi, A. Matsuo, T. Fujioka, H. To, S. Higuchi and S. Ohdo: Glucocorticoid is involved in food-entrainable rhythm of μ -opioid receptor expression in mouse brainstem and analgesic effect, *J Pharmacol Sci*, **101**,77-84 (2006). (IF: 1.792)
3. K.Nishitsuji, H. To, T. Shimizu, Y. Yanase, T. Yamada, C. Hara, K. Mine and S. Higuchi: The pharmacokinetics and pharmacodynamics of tandospirone in rats exposed to conditioned fear stress, *Eur Neuropsychopharmacology*, **16**, 376-382 (2006). (IF: 3.510)

B 邦文

(B-a) 原著論文

1. 牛島健太郎、牛島市雄、藤秀人、樋口駿：自転公転式コンディショニングミキサーを用いた軟膏混合調剤に関する検討、九州薬学会会報、**60**, 47-51 (2006).

(B-b) 総説

1. 藤秀人：時間治療を加味した抗癌剤併用療法の構築に関する基礎的研究、薬学雑誌、**126**, 415-422 (2006). (IF: 0.225)

(B-d) 紀要

1. 藤秀人：基礎実験に基づくエビデンスを考慮した至適抗ガン剤併用療法の構築（課題番号 16390159）平成 16 年度～平成 17 年度 文部科学省研究費補助金 基礎研究(B)
(2) 研究成果報告書（研究分担者） 2006.

【学会発表】

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. H. Sasaki, S. Yoshida, T. Kitahara, H. To and N. Ichikawa: Delivery timing of plasmid DNA with non-viral carrier in murine hepatitis, 21st FAPA Congress (Nov 2006, Yokohama).
2. K. Ushijima, H. Sakaguchi, H. To, S. Ohdo and S. Higuchi: Dosing time dependent variance

of anti-immobility effect of fluvoxamine in forced swimming test, Serotonin Club Meeting 2006, 6th IUPHAR satellite meeting. (Jun 2006, Sapporo).

B 国内学会

(B-a) 招待講演, 特別講演, 受賞講演

1. 藤秀人: 基礎研究を基盤とした至適抗ガン剤併用療法の構築、第 16 回日本医療薬学会年会 (金沢、2006 年 10 月) .

(B-b) 一般講演

1. 大林かよ、藤秀人、吉松宏倫、福山隆二、廣田豪、家入一郎、大戸茂弘、樋口駿: 抗リウマチ効果に及ぼすタクロリムスの投薬時刻の影響、第 27 回日本臨床薬理学会年会 (東京、2006 年 12 月) .
2. 児玉亜由美、藤秀人、木下智広、大戸茂弘、家入一郎、樋口駿: Cisplatin・Docetaxel 併用療法における至適投薬方法の構築に関する基礎的研究、第 16 回日本医療薬学会年会 (金沢、2006 年 10 月) .
3. 濱本知之、三宅秀明、樋口則英、森田光貴、稲岡奈津子、西田孝洋、中村純三、藤秀人、一川暢宏、佐々木均: 院内製剤 5%ハイドロキノン軟膏の使用状況とその有用性に関する調査—長期使用例を含む—、第 39 回日本薬剤師会学術大会 (福井、2006 年 10 月) .
4. 中川博雄、山根智子、北原隆志、中島憲一郎、藤秀人、一川暢宏、佐々木均: 長崎大学医学部・歯学部附属病院における術後感染予防抗菌薬の処方状況について、第 16 回日本医療薬学会年会 (金沢、2006 年 9 月) .
5. 樋口則英、稲岡奈津子、田原尚子、森田光貴、濱本知之、北原隆志、土井健志、塚本和弘、藤秀人、一川暢宏、佐々木均: 統合失調症患者における抗精神病薬処方中のパーキンソン病治療薬併用率に関する検討、第 16 回日本医療薬学会年会 (金沢、2006 年 9 月) .
6. 北原隆志、入江貞治、中川博雄、児玉幸修、藤秀人、一川暢宏、佐々木均: カルバペネム系抗生物質の使用状況に対する適応追加および製剤追加の影響、医療薬学フォーラム 2006 (大阪、2006 年 7 月) .
7. 森田光貴、樋口則英、北原隆志、濱本知之、稲岡奈津子、藤秀人、一川暢宏、佐々木均: Microsoft Access を用いた静脈栄養処方設計支援システム (PNPas) の開発と評価、医療薬学フォーラム 2006 (大阪、2006 年 7 月) .
8. 児玉幸修、北原隆志、山下絹代、江頭かの子、中川博雄、樋口則英、藤秀人、一川暢宏、佐々木均: 生体肝移植患者においてクラリスロマイシン併用により血中タクロリムス濃度が上昇した症例、医療薬学フォーラム 2006 (大阪、2006 年 7 月) .
9. 山内浩子、冨田勇己、一川暢宏、藤秀人、佐々木均、中嶋幹郎、西田孝洋、中村純三: 肝再生の遺伝子デリバリーに対する影響—肝切除マウスにおける polyethylenimine/pDNA 複合体の遺伝子発現、日本薬学会第 126 年会 (仙台、2006 年 3 月) .
10. 佐々木均、山内浩子、冨田勇己、一川暢宏、藤秀人、中嶋幹郎、西田孝洋、中村純三: Polyethylenimine を用いた遺伝子デリバリーへの病態の影響—四塩化炭素誘発肝障害マウスにおける検討、日本薬学会第 126 年会 (仙台、2006 年 3 月) .
11. 佐藤有紀、牛島健太郎、坂口裕美、二宮一也、是澤文恵、藤秀人、大戸茂弘、樋口駿: 精神疾患領域における時間生物学的検討 その 1 —抗うつ薬 fluvoxamine 無動時間短縮効果はセロトニントランスポーター発現量の日周リズムに依存して変化する—、第 79 回日本薬理学会年会 (横浜、2006 年 3 月) .

12. 二宮一也、牛島健太郎、是澤文恵、佐藤有紀、藤秀人、大戸茂弘、樋口駿：精神疾患領域における時間生物学的検討 その 2 —グルココルチコイドに対する室傍核内時計遺伝子発現は時刻により異なる—、第 79 回日本薬理学会年会（横浜、2006 年 3 月）。
13. 牛島健太郎、是澤文恵、二宮一也、佐藤有紀、藤秀人、大戸茂弘、樋口駿：精神疾患領域における時間生物学的検討 その 3 —Dexamethasone 連日投薬により惹起される HPA 系機能低下は投薬時刻により異なる—、第 79 回日本薬理学会年会（横浜、2006 年 3 月）。

【研究費取得状況】

1. 投薬タイミング規定因子を用いた癌化学併用療法の構築；平成 18 年度科学研究補助金・特定領域研究；代表者
2. 抗リウマチ薬の時間薬物治療法に関する基礎研究；平成 18 年度科学研究補助金・若手研究(B)；代表者
3. 腫瘍組織中トランスポーター発現の日周リズムに基づく cisplatin の至適投与方法の構築；平成 18 年度病態代謝研究会；代表者

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	27 編	（邦文）	4 編
総説（欧文）	0 編	（邦文）	3 編
紀要（欧文）	0 編	（邦文）	1 編